

## Disturbance of CT perfusion within 24 h after onset is associated with WFNS grade but not development of DCI in patients with aneurysmal SAH

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-12-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 高橋, 祐一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00032389">https://doi.org/10.20780/00032389</a>

## 主論文の要旨

Disturbance of CT perfusion within 24 h after onset is associated with WFNS grade but not development of DCI in patients with aneurysmal SAH  
脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血において発症 24 時間以内の脳灌流低下は重症度と相関するが遅発性脳虚血とは相関しない

東京女子医科大学東医療センター脳神経外科  
(指導：糟谷英俊教授)  
高橋祐一

Acta Neurochirurgica 第 159 巻 2319 頁～2324 頁  
(平成 29 年 10 月 23 日発行) に掲載

### 【要 旨】

脳血管攣縮はくも膜下出血発症後第 4～7 病日に生じ 1～2 週間続く脳動脈の可逆性の狭小化である。重篤な場合その灌流領域に遅発性脳虚血 (delayed cerebral ischemia: DCI) を引き起こし、その予後に大きな影響を及ぼす。本研究では primary brain injury と相関する来院時の mean transit time (MTT) の延長を指標とし、臨床的重症度 (WFNS grade)、脳血管攣縮の発生、DCI 及び予後 (modified Rankin scale: mRS) との関連について検討した。2007 年から 2014 年の 86 人を対象とし、脳血管攣縮は 28 人 (30.8%)、DCI は 11 人 (12.1%) に認めた。MTT の延長は WFNS grade ( $p=0.000$ ) と相関を示した。しかし、年齢 ( $p=0.759$ )、脳血管攣縮 ( $p=0.306$ )、DCI ( $p=0.669$ )、退院時 mRS ( $p=0.128$ ) との相関は認めなかった。また、DCI の発症は脳槽の血腫の厚さ ( $p=0.0065$ )、mRS ( $p=0.0052$ ) 及び脳血管攣縮 ( $p=0.000$ ) との相関を認めた。DCI を発症した領域の来院時 MTT は平均で 4.84 秒であり、non DCI の領域 (4.81 秒) との有意差は認めなかった。今回の検討にて DCI は発症時の primary brain injury よりも脳槽の血腫により生じる脳血管攣縮と関連する病態であることが示唆された。